

えべつ地域創生の会 先進都市行政調査報告書

1. 調査年月日 令和3年11月2日(火)

2. 調査地及び調査項目

北海道砂川市・市役所本庁舎の新庁舎建設について

3. 視察議員

石田武史、猪股美香、岡英彦、鈴木誠、本間憲一、宮本忠明

4. 調査報告

<砂川市概要>

砂川市は札幌市と旭川市のほぼ中間に位置し、総面積は78.68平方kmあり、基幹道ともいべき国道12号のほか、JR函館本線や道央自動車道がそれぞれ南北に伸び、豊かな緑と水に囲まれた商工農のバランスがとれた街となっている。

<建築の経緯>

築50年ほど経過した旧庁舎では、老朽化が著しく、耐震性、バリアフリーの不足等の問題があり、改修では根本的な問題解決にならないため、建て替えによる整備を決定した。

<建築概要>

○工期

令和元年8月着工～令和3年3月竣工

○新庁舎の規模

敷地面積：4,306.36㎡

建築面積：1,842.17㎡

延床面積：5,932.15㎡

鉄骨造地上4階建地下1階

○新庁舎の特徴

- ・耐震構造で、通常の1.5倍の強度
- ・自家発電設備等を設備し、最低72時間の災害対策活動等が可能
- ・空調設備に地中熱ヒートポンプの採用
- ・市民憩いの施設として、フリー（交流）スペース、展望ラウンジ
- ・1階フリー（交流）スペースは可動間仕切りで臨時的な事務室として使用可能

<事業費>

建築工事費 3,530,300

外構工事費 101,575

整備関連費 278,450

その他経費 437,942

合計 4,348,267 (※単位：千円)

・総事業費は、旧庁舎解体後の駐車場整備までを算入

<新庁舎建設の経緯と課題等について>

砂川市議会では、新庁舎建設にむけ、常任委員会として北広島市、茨城県常総市、茨城県坂東市などを、河川の氾濫等の観点などから視察されてきたとのこと。平成27年に市民委員16名で構成する庁舎整備検討委員会の設置を皮切りに、平成28年には庁舎建設検討審議会を市民公募を含めた市民委員で設置し、平成29年に基本構想を答申し、財源については、平成28年から平成30年にかけて10億円を庁舎基金に積み増しした。

さらには、事業スケジュールの短縮化を、年度をばらして継続事業として進めることで、基本構想を当初予定の12カ月から11カ月に、基本計画を当初予定の12カ月から7カ月に、基本設計と実施設計も同一事業者を選定することで、先々を見ながら進め、8カ月の短縮に成功し、基本構想から実施設計まで34カ月としたことは大変興味深く、江別市においても同様の手法を検討出来ないか部局に対して提案したく思います。

設計事務所の選定方法はポロポーザル方式で4社が手を挙げ、施工業者は一般競争入札で、主体工事、機械設備、電気設備など五つに分け、市内業者を下請けに入れることを条件とした。暖房光熱費については、旧庁舎はA重油を使用しており、新庁舎は電気暖房とすることで光熱費は上昇する。

以上のことを申し上げ、新年度から江別市においても、基本構想策定に向けてスタートを切ることになることから、災害時の防災拠点の観点からも、一日も早い着工、竣工に向けて参考とさせていただきたい。